

# TRPU NEWS

## 富山県立大学ニュース

NO. 135

| Spring | 2023



富山県立大学



p.2-3 Close-Up県大

### 本学に大学院看護学研究科、看護学専攻科開設

～高度な看護職養成と地域の保健医療福祉への貢献をめざして～

p.4 退職にあたり

p.5-6 キャンパストピックス

p.7 インフォメーション

p.7 学生レポート

p.8 研究紹介

p.9 受賞情報

p.10 サークル紹介・スケジュール

4月に開設される、  
大学院看護学研究科と  
看護学専攻科の  
特集じゃ!



「ドンドンマスマス 富山県立大学」  
プロジェクトリーダー・ドンマス教授

MAKE  
TOYAMA  
STYLE

BEYOND CORONA, WITH US

# 本学に大学院看護学研究科、看護学専攻科開設

～高度な看護職養成と地域の保健医療福祉への貢献をめざして～

富山県の看護学の教育研究の拠点として、また地域の保健医療福祉への貢献を目的に、本学に看護学部を開設したのは平成31年4月のこと。令和5年3月に1期生が卒業します。そして、令和5年4月、大学院看護学研究科（修士課程）と看護学専攻科を開設します。各科や教育の特色、どのような人材育成を目指すかなどについて、開設の準備に当たられた先生方にうかがいました。



## 未来の看護リーダーを育成する大学院 — 学びの目的に合わせた「研究コース」、 「専門看護師コース」 —

大学院看護学研究科について語るのは佐伯和子教授。「本学の看護学部は、ユマニチュード®や看工連携などの先進的な取り組みをしていますが、大学院ではそれらも含めて看護学の知見を深め、看護実践の向上を図るほか、国内のみならず世界の看護学の発展に寄与したいと思っています」と切り出され、看護学研究科の2つのコースを以下のように紹介されました。

『研究コース』は、看護技術の開発やケアの評価法などを研究し、将来にわたり看護の質の向上について学ぶコースで、「基礎看護学」「成人看護学」「老年精神看護学」「母子看護学」「地域在宅看護学」の5つの専門領域があります。工学部との連携をはじめ、多様な領域での研究を深め、大学で後進の育成を図ったり、看護の現場の課題を分析し、解決に向けてリーダーシップを発揮したりすることが期待されています。

もう1つは『専門看護師コース』です。専門看護師とは、特定の分野の看護の知識や技術を身につけた看護師のことですが、本学の専門看護師コースでは、高齢化が進んでいる県内の現状を考慮して、老年看護の高度な実践者として

専門看護師の育成が図られます。

大学院では、社会人学生等への配慮もしています。夜間や休日にも講義、研究指導を行い、夏季休暇などの長期休暇を利用した教育も実施。2年の修業年限内での修了が難しい場合は、例えば1年の延長を加えた3年の履修計画をあらかじめ立て、その計画に沿って学ぶこともできます。その場合の授業料は、2年で修了する場合と同額です。

## 富山県の保健医療福祉の発展をめざす専攻科

看護学専攻科には、「公衆衛生看護学専攻」と「助産学専攻」の2つがあり、修業年限はともに1年。その概要についてうかがいました。

松井弘美教授は、「現在、富山県内では保健師、助産師の養成校は1校であり、富山県医師会や富山県公的病院長協議会、富山県看護協会などの関連団体から本学に専攻科設置の要望がありました。また、富山県内の医療機関における専攻科設置のニーズが強く、学生においては看護学について4年間学ぶ中で、看護職の中でも保健師や助産師を目指したいという学生が一定数います。このような状況から本学で保健師および助産師を育成し、量と質の側面から富山県の保健医療福祉の充実に寄与したいと思います。」と看護学専攻科の設置目的を語りました。





佐伯 和子 教授



松井 弘美 教授



越田 美穂子 教授

### めざすは地域の健康課題に取り組む保健師育成

『公衆衛生看護学専攻』では、保健師の育成を目指します。越田美穂子教授は、「コロナ禍の3年間、保健師の活躍には目覚ましいものがありました。しかしそれ以前から保健師の社会的役割は大きくなっています。保健師は従来への健診や地域での健康づくり活動等の予防活動に加え、近年は災害時の健康支援や虐待・自殺予防、そして行政における事業化・施策化等の活動も求められ、活躍の場も多岐にわたり、その数も増加しています。」と話します。

保健師を取り巻く環境をこう俯瞰して、越田教授は抱負を語りました。「こうした社会の期待に応えるためにも、公衆衛生看護学専攻では、地域の健康課題をすくい上げ、その対策を考え、実践できる保健師を育成したいと思います。そのためには研究の視点や分析・評価の技術も必要になり、その習得も図っています。」

### 自律して臨床判断できる助産師の育成

『助産学専攻』について、松井教授は「助産学専攻では、自律して判断できる助産師の育成を図りたい。」と目標とする人材像を語りました。

助産師は、正常分娩については自律した判断を行っていますが、出産の高齢化等による妊産婦のハイリスク化に伴い、周産期における正常から異常への移行を的確に判断する能力が求められています。また核家族化により、妊娠や分娩、育児について相談できる人が少なく、妊産婦が孤立している現状があります。助産師は、分娩期の臨床判断に加え、妊娠期から育児期までをトータルに捉え必要な支援を判断することが必要となります。それに対応できる助産師の育成を目指し、講義や演習では、臨床判断能力を高める教育方法を取り入れています。



### 充実した教育・研究体制

大学院看護学研究科や看護学専攻科の講義や実習にあたっては、富山県内の保健医療福祉機関の専門家の多大な協力を得て、さらに全国の第一人者からの最新の知見も取り入れられます。本学での学びを通して、看護の課題を科学的に探究する看護学研究者や高度な看護実践能力を有する専門看護師、地域の保健医療福祉に貢献できる保健師・助産師が羽ばたく日が待たれるところです。

《参考》令和5年4月入学生の定員

科	専攻	入学定員	選抜区分
大学院 看護学研究科	看護学専攻	10名	・一般 ・学内推薦 ・社会人特別選抜
	公衆衛生看護学専攻	15名	・一般 ・社会人特別選抜
看護学専攻科	助産学専攻	10名 (女性のみ)	

令和6年度以降の定員は別途発表されます。

## 情報工学部 (仮称)

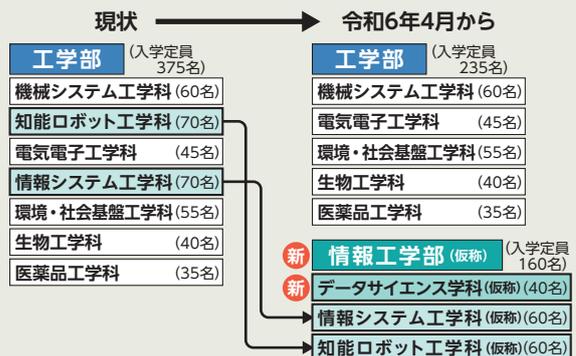
### 令和6年4月の新設に向けて準備中!

本学では、デジタル化が急速に進展する中で、ビッグデータを収集・分析して、地域やビジネスの課題解決策を導き出すデータサイエンス人材の需要が高まっていることを受け、データサイエンスの専門教育を行う情報工学部 (仮称) を令和6年4月に新設することとしました。

情報工学部 (仮称) には、新たにデータサイエンス学科 (仮称) を設けるとともに、現在の工学部から、情報システム工学科と知能ロボット工学科を移行する予定です。情報工学やデータサイエンスに関する専門教育、きめ細かな少人数教育などにより、学生の皆さんの「学び」を積極的に支援し、将来、様々な分野で活躍できるデジタルのエキスパートの養成に向けたカリキュラムを整備予定です。

情報工学部 (仮称) は、射水キャンパスに設置予定で、今後、新校舎の建設も予定しています。

### 令和6年度の学部構成 (設置構想中)



## 退職にあたり



看護学部  
看護学部長・  
老年看護学教授  
竹内 登美子

2017年に看護学部設置準備室教授として着任してから、早くも6年の歳月が流れました。2年間は県庁内に研究室を置き、県職の皆様を支えて頂きながら、教育課程だけでなく看護学実習室や研究棟のデザイン等にも関わらせて頂きました。富山産の杉を使った光溢れる新校舎に初めて足を踏み入れた日には、“知性と優しさを備えた看護人材を育成する”という決意を新たにしました。

開設当初の看護学教員は48人で、アクティブラーニングや反転授業を取り入れて、自主性を育てる教育を目指しておりました。しかし、1年後か

らはCovid-19の影響によるオンライン授業や、軽症者施設への教員の派遣、臨地実習の中止等々、予想外の出来事に対応し続ける3年間となりました。そのような中でも速やかにTeamsを使つての授業へと移行できたのは、工学部教員の皆様や事務の皆様のお力添えと、看護学教員の努力あつてのことであり、心より感謝申し上げます。

次年度には専攻科と大学院修士課程が始まります。次は博士課程向けの準備が決まっております。工学部と共に発展し続ける看護学部に期待を寄せています。



工学部  
生物工学科  
教授  
浅野 泰久

私は、1990年の開学時から在籍し、まず生物工学研究センター（2019年より生物・医薬品工学研究センター）の設計から開始しました。生物工学科および医薬品工学科は、本センターを母体とする大学院大学に遡ることができるユニークな歴史を持っています。本センターは、バイオテクノロジーの実用化をめざした基盤研究や応用研究の展開、大規模研究プロジェクトの拠点となっています。最近では、内閣府のくすりのシリコンバレーTOYAMAプロジェクトによって、医薬品分野における研究開発や専門人材の育成が行われ

ています。また、大型研究機器を導入したり、大学院の外国人留学生や他大学で学位を得た博士研究員などが本学で研究を行う機会にもなっており、学生達も活発な国際交流を楽しんでいることと思います。

本学は、開学から30年以上経過し、「起・承」から「転」への時代にも突入しつつあると思われまふ。いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中に、新しいダイナミックな変化をも取り入れて、今後の輝かしい未来に向かって発展されることを祈っています。



工学部  
電気電子工学科  
准教授  
唐木 智明

恩師で、本学の元学長の川端昭先生と名誉教授の安達正利先生のお誘いを受けて、2003年4月に当時の電子情報工学科の助手として赴任しました。ちょうど学部1期生の卒業研究が始まる年であり、活気あふれる研究室で学生たちと一緒に装置の立ち上げや実験をしていました。今までの30年間、本学が学科の改組や拡充など発展し続けている中で、赴任当時の電子情報工学科から知能デザイン工学科、知能ロボット工学科、電子・情報工学科、現在の電気電子工学科に所属が変わってきたが、一筋に強誘電体・圧電体材料に

関する研究を続けてきました。多くの中国留学生たちとも出会って、直接に指導していた11名の留学生が博士学位を取得しました。また、より多くの人に本学を知ってもらおうと、唐木が委員長を務めた国際会議EM-NANO2021を本学の中央棟で開催することにしたが、パンデミックによりオンライン開催となってしまい、残念でした。定年退職にあたり、本学の益々の発展を祈るとともに、長い間にお世話になった教職員のみなさまに感謝申し上げます。



教養教育センター  
准教授  
中 嶋 崇

私が本学に英語教員として着任して早いもので25年になります。この間一貫して(外国語は)「使う事が学ぶ事」を実践してきました。English ChatからEnglish Challengeプログラムを立ち上げ、English Camp等の活動を行ってきました。特にEnglish Chatはコロナ禍でも一度として途切れることなく続き、今では卒業生も参加するCommunityにまで成長しております。私の専門である言語学では、日本語を含む「膠着語」の語彙統語論に発見をもたらす事ができました。アメリカから帰国当時、いわゆる東部の8+1の先端

研究ループから外れ、当時すでに当たり前であったインターネット環境もない状態に置かれてしまい、「さて、どうするか?」と自問した結果腹を括ったのは「誰も手をつけていない基礎研究に専念する」でした。膠着現象はそれにうってつけの課題で、そこに新たな理論を提案できたのは研究者として存外の喜びです。在職中は多くの先生・事務局の方々から多大なるご支援をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げますと共に、皆様の益々のご活躍をお祈りしつつ、退職の辞といたします。

# Campus Topics

## 学長の再任について

公立大学法人富山県立大学学長選考会議は、候補者として推薦があった下山 勲 氏(現学長)を次期学長予定者に決定しました。なお、下山 勲 氏は、今年度末で学長就任後4年となり、

「再任の場合は通算して6年を超えて在任することはできない」という規定の趣旨から、次期の任期については令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間となります。

## 富山県公立大学法人評価委員会の評価結果について

富山県公立大学法人評価委員会による「令和3事業年度の業務実績に関する評価」で、本学は、過去最高となる4項目がS評価を得ました。これは、「教育」

「研究」「財務」「業務運営」の取組み内容が「特筆すべき進捗状況にある」と評価されたものです。今後とも魅力ある大学づくりに取り組んでいきます。

## キャリア支援(就職・進学)セミナー

8月20日(土)に「キャリア支援(就職・進学)セミナー」をオンラインで開催しました。当日は、鈴木キャリアセンター所長による本学の就職・進学状況や就職支援体制についての説明、(株)マイナビによる最新の就職情報や保護者の役割についての説明、学生3名による就

活体験談の発表を行い、約90名の保護者や学生に参加いただきました。



## 富山県立大学サマースクール 製薬工学コース〈分析・製剤・バイオ医薬〉

9月5日(月)～9日(金)の期間でサマースクールを開講しました。

特徴は医薬品の基礎から最先端の製剤技術などを学び、県内製薬企業のインターンシップを通じて富山の医薬品産業を担う人材を育てることです。



今年は全国から28名の学生が修了しました。

## 第21回工学部FD研修会

10月24日(月)に工学部教員を対象としたFD研修会をオンラインで開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みのことです。

知的財産に関することや発達障害の疑いのある学生の特徴とその話し方、

英語、数学等の学生の学力の現状について、発表が行われました。



## 田中耕一特任教授による特別授業

11月16日(水)、本学の特任教授・田中耕一先生(栲島津製作所エグゼクティブ・リサーチフェロー)による特別授業が大講義室で開講され、学生・教員約80名が受講しました。

授業では、質量分析の技術が癌やアルツハイマー病の早期発見や感染症の診断等、様々な分野に応用できることをご紹介いただいたほか、ある分野の考え方や技術を他の分野に応用することでイノベーションが起こる可能性があることなど、自らのご経験を踏まえた貴重なお話をいただきました。



## 第33回 県大祭 開催!!

令和4年10月22日(土)、23日(日)に「第33回県大祭」が開催されました。

「WA!!」をテーマに、3年振りに対面での大学祭を開催し、お好み焼きや焼きそば等の模擬店、サークルによるステージ発表など、大きな賑わいを見せました。

学生はもちろん、地域の方にもご来場いただき、大盛況で終わりました。



# Campus Topics

## 第7回 英語スピーチコンテスト

10月21日(金)に、第7回 富山県立大学学長杯争奪 英語スピーチコンテストをオンラインで開催しました。今回は、看護学部及び工学部から10名の学生が出演して、日頃から取り組んできた練習の成果を発揮しました。みな



さんのとても素晴らしいスピーチに、感銘を受けました。

## 富山県機電工業会による特別講義

知能ロボット工学科の後期授業として、一般社団法人富山県機電工業会による特別講義を開講しました。本講義は平成27年度から開講しており、今年度が8年度目となります。

富山県産業の強みであるアルミ、金型、工作機械、電気・電子部品、情報の分野の企業の第一線で活躍してい

る技術者等によるご講義や工場見学を行いました。

10月7日(金)の講義では、富山県機電工業会の金森俊幸会長(田中精密工業(株)相談役)を講師に迎え、富山県のものづくりの特徴や強みなどをご講義いただきました。

## フィンランド研究滞在

工学部環境・社会基盤工学科の中村秀規准教授は、日本学術振興会の特定国派遣研究者として、2021年10月から2022年9月までの1年間、フィンランドのヘルシンキ大学に研究滞在了ました。オープンダイアログの文化と



フィンランドにおける持続可能な発展政策過程を研究しました(写真は滞在先研究所)。

## 令和4年度 高校生向け科学技術体験講座

8月3日(水)に大門高校、8月10日(水)に富山第一高校、12月12日(月)に富山東高校の皆さんを招き講座を実施しました。

受講生は日頃触れることのない専門

的な講義や実験を体験し、「難しかったが分かりやすく教えて頂き楽しく体験できた」「設備が充実していて大学での実験が楽しみになった」等の感想が寄せられました。



8/3大門高校 宮本先生講座  
「私たちの生活を支えるエネルギー変換工学～発電やエアコンの技術から、カーボンニュートラルを考えよう～」



8/10富山第一高校 石坂先生講座  
「無線通信によるドローン自動操縦体験」



12/12富山東高校 日比先生講座  
「微生物の力を借りるために」

## 令和4年度 富山県立大学環境講演会

12月1日(木)に環境講演会を開催し、「アフター・コロナの自然共生社会」と題して、国立環境研究所の五箇公一氏にご講演いただきました。総勢394名の参加者が生物多様性の危機的状況と保全の重要性の説明を受け、人間社会を持続のために私たちが何をするべきか、どのような社会を目指すべきか理解を深めました。



## 富山県立大学秋季公開講座

情報システム工学科の教員が講師となり、『DX・DS時代の情報システム』をテーマに11月に秋季公開講座を開催したところ、延べ228名に参加いただきました(オンライン参加含む)。「日頃から勉強したいと思っていた内容で大変参考になった」「大変興味深い講座であった」などの感想をいただきました。



Information 1 学位記授与式

令和4年度富山県立大学学位記授与式を右のとおり挙ります。

なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況等により実施方法等が変更となる可能性があります。情報は大学公式HPでお知らせしますので、ご確認ください。

【概要】

- ◆日時 令和5年3月18日(土) 午前10時30分～
- ◆会場 アルビス小杉総合体育センター(射水市戸破3111番地)
- ◆その他
  - ・駐車場は数が限られていますので、ご留意願います。
  - ・また、小杉駅(南口)から会場行きシャトルバスを用意する予定としておりますので、シャトルバスのご利用をお願いします。
  - ・当日の式典の様子は、富山県立大学HPにて同時中継します。

Information 2 富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

～令和5年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目などバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

- ◆募集期間 令和5年3月22日(水)～4月4日(火)
- ◆授業期間 令和5年4月10日(月)～8月10日(木)
- ◆公開科目
  - 【一般教養科目】  
社会学I、心理学I、数学Iなど
  - 【工学部専門科目】  
機械力学、ロボット工学基礎、  
バイオ医薬工学など
- ◆受講料 1科目5,000円(複数科目の受講可能)  
※研究協力会員は半額助成となります。

◆お申込み・お問い合わせ先

新型コロナウイルス感染症の発生状況等により、内容が変更となる可能性があります。  
※詳しくは右記大学HPをご確認ください。

富山県立大学地域連携センター(受講生窓口)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180  
TEL: 0766-56-0604 FAX: 0766-56-0391 E-mail: openuniv@pu-toyama.ac.jp  
URL: [https://www.pu-toyama.ac.jp/regional\\_alliances/lifelong\\_learning/open\\_university/](https://www.pu-toyama.ac.jp/regional_alliances/lifelong_learning/open_university/)

Report from students  
学生レポート

Research of Matsumoto Laboratory

大学院工学研究科 知能ロボット工学専攻1年 坂野 瑛

知的センシング工学講座 松本研究室では、もみ殻や竹葉などの植物材料から半導体材料であるSi微粒子を作製し、蛍光材料やリチウムイオンバッテリーの負極材料、太陽電池などへの応用を目的とした研究を行っています。毎年大量に廃棄されているもみ殻や竹葉などを半導体材料へリサイクルし、環境問題対策や半導体不足の解消に貢献できると考えています。もみ殻や竹葉由来Si微粒子はレーザー光を照射することで肉眼で目視可能な赤色蛍光を示します。これは生体中のがん細胞を発見するバイオマーカーや、発光ダイオード(LED)の発光層へ応用することが可能です。



もみ殻由来Siの  
蛍光測定の様子



(左) もみ殻と竹葉、(右) 植物から作製したSi微粒子

こんな松本研究室で、研究していく中で心なしか普段の生活で地球環境を気遣う機会が多くなったように感じます。廃棄物から蛍光Si微粒子を作製するこの研究が未来の地球に住む生物すべての暮らしを明るくしてくれると信じて今日も私たちは研究を続けています。

## 非言語情報を合成音声と語学教育に役立てる

日常会話音声を観察すると、私たちは言葉以外にもイントネーションや声質、発話速度や間のとり方など、実に様々な方法でコミュニケーション活動を行っていることが分かります。例えば驚いた時や不満を感じた時に発せられる「あっ！」や「えー！」と表記される音はharsh voiceという声質です。また言いづらいことを伝える時や丁寧さを表す時に、私たちは往々にしてゆっくり言い淀みながら発話をします。しかしこれらは、例えば英語や中国語ではあまり聞かれません。harsh voiceで「えー！」と驚く日本人を見て、驚く外国人はたくさんいます。また苦しそうに言い淀みながら謝る日本人を見て、「一体どうしたんだ？」と不思議に思う人もいます。このように、言葉以外の情報(=非言語情報)の現れ方にも言語差があるわけです。

私は、コミュニケーションに寄与する非言語情報を主な研究対象にしており、現在は中でも言い淀みを中心に研究しています。AIを使った自然に言い淀み人間味あふれる合成音声の開発や、英語学習者が例えスラスラと英語が出て来なくても「英語らしく」つかえながらコミュニケーションを遂行できるようになるための指導法の確立を目指しています。



音声分析のための録音風景

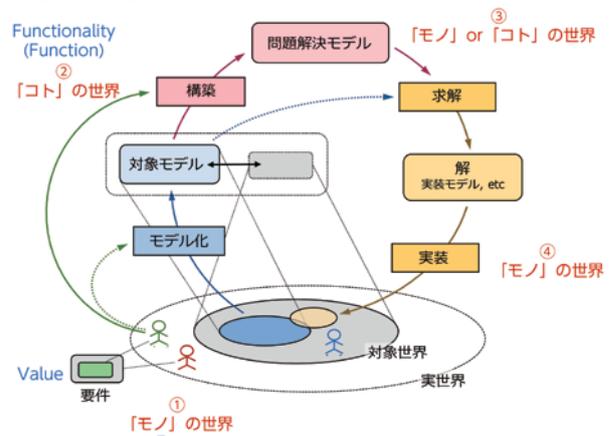
## 生物、機械、社会を「システム」として捉える

2013年に情報システム工学科に着任して9年が経とうとしています。これまでに研究対象としたものとして例えば、再生可能エネルギーの配電網や補講時間割、定期バス路線などがあります。最近では、鉄鋼やアルミの製造工程の最適化や交通事故分析、タンパク質の可溶化現象の解明などにも取り組んでいます。私自身は、生産工学や交通工学、ましてや生物学を専門としているわけではなく、生物や機械あるいは社会をシステム(=目的をもつ要素の集合とその関係)として捉え、システムの構造や外部環境との関係を形式的・抽象的に捉えることにより、最適性や予測可能性、あるいは何らかの共通性や普遍性を見出そうとしています。そのためには、課題との出会いや専門家との協働が欠かせません。私は対象課題そのものよりも、それに取り組む専門家の思考の過程や様式、あるいは悩み方により興味があるのかもしれません。富山県立大学に着任して驚いたことの一つとして、産官学にこれらの機会や人材が豊穡であることです。世界屈指と言っても過言ではないでしょう。

一方で「システム研究」の道具として「数学」が欠かせません。そこで数学を出自とする同僚の中村正樹先生と、

数年前から研究活動をご一緒するようになりました。中村先生との毎日の議論は、数学が不得手な私にとって驚きと楽しみに満ちたものになっています。

今後本学では、データサイエンスを核とする新たな学部と学科の新設を予定しています。そのような流れの中で、世界屈指のシステム研究のメッカをつくるべく精進して参ります。



システム概念図(システム化のプロセスを概念化したもの)  
©システム学を考える会

教員の受賞

受賞日順、学科名、職位は  
受賞時のもの

中堀 伸枝 講師/看護学部看護学科  
一般社団法人 日本公衆衛生学会 ベストレビュー賞  
日本公衆衛生雑誌編集委員会の査読委員としての貢献  
R4.10.7受賞

古澤 之裕 准教授/工学部医薬品工学科  
日本食品免疫学会 第18回日本食品免疫学会学術大会「ポスター賞」  
腸内微小環境に影響を与える水溶性食物繊維の  
比較検討  
R4.11.9受賞

野田 堅太郎 講師/工学部知能ロボット工学科  
塚越 拓哉 講師/工学部知能ロボット工学科  
下山 勲 学長  
電気学会 センサ・マイクロマシン部門  
第39回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 優秀ポスター賞  
ゲルコースの非侵襲計測のための  
超高感度光音響センサ  
R4.11.16受賞

大倉 裕貴 助教/工学部電気電子工学科  
吉河 武文 教授/工学部電気電子工学科  
岩田 達哉 講師/工学部電気電子工学科  
電気学会 センサ・マイクロマシン部門  
第39回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 優秀ポスター発表賞  
データ電圧の最適化による単一センサ素子での高精度で  
アダプティブなおい識別  
R4.11.17受賞

榊原 一紀 准教授/工学部情報システム工学科  
計測自動制御学会 2022年 システム、情報部門 部門貢献賞  
部門の発展に貢献した  
R4.11.27受賞

中村 正樹 准教授/工学部情報システム工学科  
榊原 一紀 准教授/工学部情報システム工学科  
本吉 達郎 准教授/工学部知能ロボット工学科  
星川 圭介 教授/工学部環境・社会基盤工学科  
計測自動制御学会 SSI 最優秀論文賞 (SSI Best Paper Award)  
形式概念分析と機械学習による交通事故予測システムの  
検討 (著者:小谷 祥悟 (学生)含む)  
R4.11.27受賞

古澤 之裕 准教授/工学部医薬品工学科  
福井県小浜市 第21回杉田玄白賞・奨励賞  
機能性素材による腸内細菌を介した宿主免疫調節と疾患  
発症予防に関する研究  
R4.12.3受賞

川口 寛介 講師/看護学部看護学科  
公益社団法人日本看護科学学会 第42回学術集会優秀演題ポスター発表賞  
演題発表題目「ロボット支援前立腺全摘除術後1年間の尿失禁  
回数およびパッド枚数の実態とQOLとの関連」  
R4.12.4受賞

竹井 敏 教授/工学部医薬品工学科  
Semiconductor Equipment and Materials International SEMI Scientist Award 2022  
Water-soluble resist material for  
advanced lithography  
R4.12.15受賞

竹井 敏 教授/工学部医薬品工学科  
コーセーカスタムロジ-研究財団 コーセーカスタムロジ-研究賞  
マイクロニードルの開発  
R4.12.15受賞

佐伯 和子 教授/看護学部看護学科  
日本公衆衛生看護学会学術奨励賞 (優秀論文部門)  
就業1年目保健師の家庭訪問能力の発達  
一指導者の評価による縦断調査  
R4.12.17受賞

大西 竜太 講師/看護学部看護学科  
日本公衆衛生看護学会2022年度ベストレビュー賞  
論文の査読対応に関する賞  
R4.12.17受賞

北島 友香 助教/看護学部看護学科  
令和4年度 金沢大学ダイバーシティ顕彰 はあざみ女性研究者賞 若葉賞  
超音波画像診断装置を活用した妊娠後期から産褥早期の  
下部尿路機能の探索に関する研究  
R4.12.23受賞

学生の受賞

学科名、学年、指導教員の  
職位は受賞時のもの

菊地 大智 博士前期課程環境・社会基盤工学専攻2年  
第30回土木学会地球環境シンポジウム優秀ポスター発表賞  
指導教員:准教授 呉 修一 R4.9受賞

山口 愛由 博士前期課程生物・医薬品工学専攻1年  
Active Enzyme Molecule 2022, Poster Award  
指導教員:准教授 岸本 崇生、教授 占部 大介 R4.10受賞

塩野 啓太 博士前期課程生物・医薬品工学専攻2年  
2022年度 有機合成化学北陸セミナー 優秀発表賞  
指導教員:教授 占部 大介、助教 深谷 圭介 R4.10受賞

山口 愛由 博士前期課程生物・医薬品工学専攻1年  
2022年度 有機合成化学北陸セミナー 優秀発表賞  
指導教員:准教授 岸本 崇生、教授 占部 大介 R4.10受賞

菊地 大智 博士前期課程環境・社会基盤工学専攻2年  
令和4年度 土木学会全国大会 第77回年次学術講演会 優秀講演者賞  
指導教員:准教授 呉 修一 R4.10受賞

山口 愛由 博士前期課程生物・医薬品工学専攻1年  
2022年度 日本木材学会中部支部大会 優秀発表賞  
指導教員:准教授 岸本 崇生、教授 占部 大介 R4.10受賞

石川 諒真 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
公益社団法人 砥粒加工学会 優秀講演賞  
指導教員:准教授 宮島 敏郎 R4.10受賞

水野 功務 工学部電子・情報工学科4年  
第199回 SLOM研究発表会 (SLOM WIP Forum 2022) WIP 注特賞  
指導教員:教授 吉河 武文 R4.11受賞

山口 愛由 博士前期課程生物・医薬品工学専攻1年  
第67回リグニン討論会 学生優秀ポスター賞  
指導教員:准教授 岸本 崇生、教授 占部 大介 R4.11受賞

佐伯 真彬 博士前期課程電子・情報工学専攻2年  
電気学会 センサ・マイクロマシン部門  
第39回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 優秀ポスター発表賞  
指導教員:講師 岩田 達哉、教授 吉河 武文 R4.11受賞

李 喆 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
Matching HUB ビジネスアイデアプランコンテスト 北陸銀行賞/日本公庫賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

重昂輝 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
Matching HUB ビジネスアイデアプランコンテスト 北陸銀行賞/日本公庫賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

草野 大勢 工学部機械システム工学科4年  
Matching HUB ビジネスアイデアプランコンテスト 北陸銀行賞/日本公庫賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

小林 将 工学部機械システム工学科4年  
Matching HUB ビジネスアイデアプランコンテスト アイ・オー・データ賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

井上 達哉 工学部機械システム工学科4年  
Matching HUB ビジネスアイデアプランコンテスト アイ・オー・データ賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

武田 尚恭 工学部機械システム工学科4年  
Matching HUB ビジネスアイデアプランコンテスト アイ・オー・データ賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

間宮 あづ美、久保 隼、北村 猛  
工学部情報システム工学科3年  
第18回みんな起業家、集まらんまいけ! ビジネスアイデアコンテスト最優秀賞  
指導教員:講師 木下 史也 R4.11受賞

宮崎 凌 博士前期課程生物・医薬品工学専攻2年  
第71回高分子学会北陸支部研究発表会 優秀講演賞  
指導教員:教授 小山 靖人 R4.11受賞

重昂輝 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
テクノアイデアコンテスト テクノ愛2022 奨励賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

李 喆 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
テクノアイデアコンテスト テクノ愛2022 奨励賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

武田 尚恭 工学部機械システム工学科4年  
テクノアイデアコンテスト テクノ愛2022 奨励賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R4.11受賞

竹部 芳紀、劉 昌輝 工学部知能ロボット工学科1年  
(公社)日本設計工学会 設計コンテスト2022 努力賞 (発明倶楽部の活動で受賞)  
指導教員:教授 神谷和秀、准教授 伊東 聡 R4.11受賞

小谷 祥悟 博士前期課程電子・情報工学専攻2年  
SSI 優秀発表賞 (SSI Excellent Presentation Award)  
指導教員:准教授 中村 正樹 R4.11受賞

小谷 祥悟 博士前期課程電子・情報工学専攻2年  
SSI 最優秀論文賞 (SSI Best Paper Award)  
指導教員:准教授 中村 正樹 R4.11受賞

ワンシタ シャルマ 博士前期課程生物・医薬品工学専攻1年  
Best Poster presentation Award of 13th ISAJ Symposium  
指導教員:講師 安田 佳織、特別研究教授 榊利之 R4.11受賞

甲斐 雅也 博士前期課程電子・情報工学専攻1年  
2022年度 電気・情報関係学会北陸支部連合大会  
指導教員:准教授 中村 正樹 R4.12受賞

諸田 才風 博士前期課程電子・情報工学専攻1年  
応用物理学会北陸・信越支部 発表奨励賞  
指導教員:教授 大寺 康夫 R4.12受賞

釘宮 優希 工学部生物工学科4年  
令和4年度 内外環境応答・代謝酵素研究会 学生優秀発表賞  
指導教員:教授 生城 真一、助教 西川 美宇 R4.12受賞

大原 冬海 博士前期課程電子・情報工学専攻1年  
日本生体医工学会 令和4年度 北陸支部大会 努力賞  
指導教員:講師 木下 史也 R4.12受賞

飯田 諒介 博士前期課程知能ロボット工学専攻1年  
ITS研究会 研究活動奨励賞  
指導教員:講師 佐保 賢志 R4.12受賞

八窪 優奈、安藤 麻乃 工学部医薬品工学科3年  
第1回 2022オレゴンカップ英語プレゼンテーションコンテスト  
優良賞「The SDGs in Food Corruption」  
国際交流委員会 R4.12受賞

山岸 里緒、三浦 早耶香 工学部医薬品工学科4年  
第1回 2022オレゴンカップ英語プレゼンテーションコンテスト  
優良賞「The SDGs in Food Corruption」  
国際交流委員会 R4.12受賞

高橋 飛馬 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
日本機械学会 マイクロ・ナノ工学部門 若手優秀講演表彰  
指導教員:准教授 遠藤 洋史 R4.12受賞

山上 礼夢 博士前期課程知能ロボット工学科1年  
HCGシンポジウム2022 学生優秀インタラクティブ発表賞  
指導教員:准教授 高野 博史 R4.12受賞

谷林 佑馬 工学部知能ロボット工学科2年  
ものづくり in とやま 学生論文 佳作  
指導教員:教授 神谷 和秀 R5.1受賞

李 喆 博士前期課程機械システム工学専攻1年  
ものづくり in とやま 論文募集 最優秀賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R5.1受賞

武田 尚恭、小林 将、井上 達哉、草野 大勢  
工学部機械システム工学科4年  
いみず学生アイデアコンテスト 優秀賞  
指導教員:准教授 寺島 修 R5.1受賞



## スキー部



こんにちは、私たちスキー部は楽しく滑ることをモットーに、県内・県外のスキー場で活動しています。

数あるスキー競技の中でも、私たちは基礎スキーという滑りの「美しさ・速さ・正確さ」を競うスポーツを行っています。2月末には全国の学校が集まって行われる岩岳大会もあり、そこに向けて各々が自分のペースで練習を頑張っています。部員の9割が初心者から始めていますが、合宿などでコーチの方に指導してもらえる機会や先輩に教えてもらえるため、初めは滑れなくても上達することが出来ます。練習の結果、大会で優秀な成績を収める人や、検定で級を取得する人もいます！

スキーといえば冬だけのイメージがありますが、夏季はインラインスケートやピスラボというサマースキーも行っています。また夏には恒例行事の「浜コン」という海で遊ぶイベントもあり、1年を通して楽しみが盛りだくさんです！興味がある方はスキー部のインスタグラムを覗いてみてください。

Instagramアカウント @tpu\_demoskiclub  
(看護学部看護学科3年 加藤 遥)

## Schedule

スケジュール【令和5年度】

April  
4月

- 6日(木) 入学式
- 10日(月) 前期授業開始

射水キャンパス

- 3月29日(火)～4月7日(金) オリエンテーション
- 4日(火)、5日(水)、7日(金) 学生定期健康診断

富山キャンパス

- 3日(月)～7日(金) オリエンテーション
- 3日(月)、11日(火)～13日(木) 学生定期健康診断

May  
5月

- 31日(火) 研究協力会総会

June  
6月

- 1日(木) 学生球技大会

July  
7月

- 上旬 サークルリーダー研修会
- 下旬 対面型オープンキャンパス(看護学部)

射水キャンパス

- 上旬 大学院工学研究科入学者選抜

※令和5年2月1日現在の予定です。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、今後予定が変更になる可能性があります。最新の情報は大学HPをご覧ください。  
※対面型オープンキャンパス(工学部)については、日程が決まり次第大学HPで公表します。

## 「公立大学法人富山県立大学 安否確認システム(ANPIC)」

### ●安否確認システム(ANPIC)について

本学では「公立大学法人富山県立大学安否確認システム(ANPIC)」を導入しています。富山県で「震度6弱」以上の地震が発生したときは、あらかじめ学生の皆さんに登録していただいているメールアドレス等にANPICから安否確認メールが自動送信され、受信した学生は安否状況を報告することになっています。

上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が手動でメール配信を行います。

### ●安否検索

ANPICは、ご家族が、本学の学生の安否情報を検索して、確認をすることができます。

電話でのお問い合わせには、時間がかかる場合がありますので、ご家族の方は、できるだけ【ANPICログインサイト】のURL※にアクセスして、安否検索をご利用くださいようお願いいたします。なお、安否情報は、平常時は非公開に設定しています。大規模災害時にご家族が学生及び教職員の安否を確認できるように一時的に公開します。

※本学ホームページにリンクを掲載しています。

## 編集後記

教員は専門分野に応じていくつかの学会に所属しており、それらの学会は年に複数回の学術集会を開催している。研究室所属の学生にとって、そこでの発表は大学の外で自らの研究成果がどの程度通用するかを測る力試しの場でもある。今号に掲載された極めて多くの表彰は、これらが優れた発表であると専門家に認められた結果である。県大生の活躍を嬉しく思うとともに、修練を続けてきた学生諸君に心から敬意を表したい。なお一覧表でも分かる通り、受

賞者の多くは大学院生か、学部4年生である。入学当初から蓄えてきた知識と、研究室活動を通して養ってきた課題解決能力はよいよ大学院から実を結び始める、とも言えるだろう。知力を武器に全国の大学出身者に伍するには、大学院での研究を通じた専門的な学びと思考の鍛錬が強力な武器になるはずだ。本学ではこの4月に大学院看護学研究科及び看護学専攻科が開設される。平成31年度の開設以来、高い志願倍率に支えられ、看護学部には意欲の高

い学生がたくさん入学した。今後は学部で蓄積してきた知識を足掛かりに、大学院でさらに成長する学生さんが出てくることと思われる。

看護学部生も週に数度通う射水キャンパスでは、学生会館隣のキャンパススクウェアの整備も急ピッチで進められている。新学期はコロナ感染症の5類移行に伴い大学の運営にも変化があると思われるが、学生諸君のコミュニケーションが活発になっていくことを楽しみにしたい。

(広報・情報委員長 大寺 康夫)



この用紙は資源保護のためインキは植物油インキを使用しています。